第５回　2025 年政府出展事業検討会議

■日時：2024 年 1 月 23 日(火) 9:30~11:00

■参加者
池坊 専好氏、古賀 信行氏、コチュ・オヤ氏、佐藤 オオキ氏、塩瀬 隆之氏
※千 宗室氏、鳥井 信吾氏、米良 はるか氏はご欠席

■議事要旨
●事務局より、資料３に基づいて、日本政府出展事業（日本館）検討状況について説明した後、有識者から意見を頂戴した。各有識者からの主な意見は以下の通り。

・現状では予算の話ばかり取り上げられるが、開催の意義そのものを政府として改めてしっかりと発信する必要がある。万博を自国開催してすぐそばで世界中の人と共有できることの意義をあらためて発信いただきたい。

・日本館はいのちの循環がテーマだが、立ち上がる強さ、諦めない粘り強さなど循環に対する圧倒的な信頼があり、その力強さについてもしっかりと発信出来ると良い。

・子供向けの情報発信がしっかり出来たら良い。バーチャル日本館が学校の事前学習に活用でき、現地で見ただけで終わらない様に、予習と来館後の復習につながる教育現場との事前の調整が出来ると良い。

・体験者が自分の感じた事や意見を言葉にし、見える形でシェアできるような場が用意されていると良い。

・バーチャル日本館などで現場の展示内容で伝えきれない趣旨や裏話の発信があると、来場者同士の現地での会話の材料になり、体験後に当事者として現地で発信してもらいやすくなるのではないか。

・行動変容を促す上で、日本館で伝えたいことや来場者に何を持って帰ってもらいたいかを改めて整理し、言葉にした上でマスメディアやソーシャルメディアとコミュニケーションする事が重要。

・中心を置かないというメインのストーリーや基本構想を大切に守りつつ、分かりやすさが権威性をもたないように、体験として記憶に残しやすい箇所をピックアップ出来たら良い。楽しみ方を事前にコミュニケーションすることが必要。

・月刊日本館の中で、例えばテーマ館プロデューサーからコメントを各月ごとに頂くなどの連動があると、他のパビリオンとのつながりを言語化することにもつながり、関連性が見えて良い。

・単に持ち帰れるものを渡すだけでなく、しっかりと行動変容につながると良い。自分に何が出来るのかを考え、行動に移したことが社会の変化、例えば被災地の支援や紛争といった問題の解決につながると良い。そうした想いが形としてつながるようなお土産であって欲しい。

・日本的な発想や文化を営みにしてきた団体・企業をしっかりと巻き込み、そこからの発信が出来ると良い。そうした日常に接している部分が世界に再提示される事は誇らしい事。

・日本館はいのちの根源的な部分を示した建物であり、全ての生き物が対等であるという連帯感が伝わって欲しい。日本館は他館に共通するいのちというテーマそのものに対するメッセージを体現した建物。

・海外におけるコミュニケーション戦略が重要。一般人に加え、建築家や技術者のような専門家の中でもバズるように万博の面白い側面の紹介が必要。しっかりと技術やコンセプトに関する情報発信を行う必要がある。

・体験した直後の感動した瞬間を捉え、発信してもらう事が大事。館を出た直後に何を体験し、どう考えたかを発信してもらえるような仕組みが必要。

・バーチャルはクオリティが低いとネガティブな影響が大きいので気を付けるべき。また、日本館への誘因になるよう、バーチャル体験でしか得られない特典がリアルの日本館で使える、といったゲーミフィケーションの要素が必要。

・大地震に対する日本の対応は、海外からは驚嘆をもって受け止められる一つの要素。上手く要素に取り込んで発信出来ると良い。

・日本の魅力を海外に発信するという観点で、クールジャパン政策とも連携出来たら良い。

・具体的な物を見なければ、人は動かない。実物を見ること自体が貴重な体験であり、その体験を通じて各人に「見た」という感覚が残る。

・万博へ高い関心を抱いている層のみならず、関心の低い層に対し、万博や日本館の魅力をどのように伝えるかが重要。「循環型社会」などのキーワードに関心を寄せる人たちが、意識せずとも、万博や日本館へたどり着く仕掛けが求められる。

・バーチャル日本館を作るからにはリアルの日本館との連動が重要であり、会場訪問を促す工夫が必要ではないか。

・能登半島地震が発生したが、日本はこれまでも東日本大震災や熊本地震などの大規模な震災に直面し、その都度、時間をかけて復旧・復興を進めてきた経験がある。震災を克服してきた知恵とノウハウがあり、そういった日本の姿を象徴的に見せられると良い。

・万博に向けた機運醸成が発展途上の段階にあるからこそ、思い切ったチャレンジが出来るのではないか。皆が否定しない内容のみ取り入れるのではなく、何か一つでも特徴的な要素があると良い。

・日本館も機運醸成を行う必要があると思うが、今の日本社会の空気感や国民感情に寄り添いながら誠実に丁寧なコミュニケーションをしていく事が必要。

以上